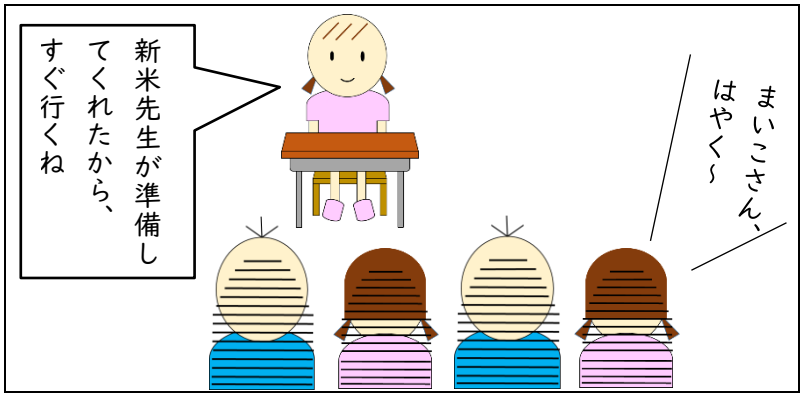
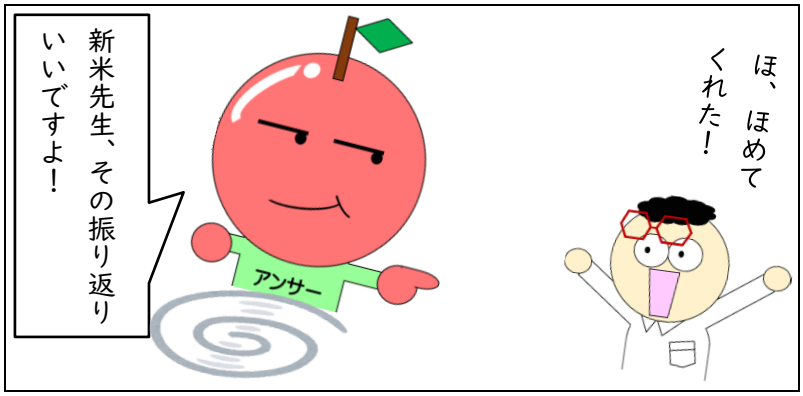
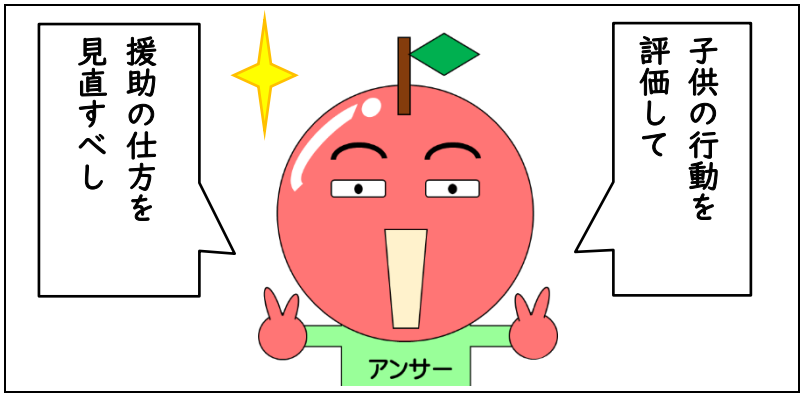
Q20. どうしても子供に援助し過ぎてしまいます…。







子供の行動を評価し、本当に必要な援助を見極める

□　過剰に援助しがちな場面における子供の行動を評価（できている／もう少しでできる／できていない）します。
□　できていない場合は、どこまで（どう）援助すればできるようになるのかを考えてみましょう。

「～できるようにしなければ」という強い責任感から、子供への指示や注意、援助が多くなることがしばしばあります。また、「他の子供たちが既に〇〇しているから、その子が遅れないように自分（教師）がやってしまった…」という経験はありませんか？子供によかれと思って行った援助が、もしかすると、子供の「自分からやってみよう」という意欲や経験の機会を奪っているかもしれません。まずは、子供への援助の仕方を見直すために、子供がどの程度行動できているかを評価しましょう。

チェック　できている　／　もう少しでできる　／　できていない

「もう少しでできる」「できていない」場合には、「できる」を目指すために…
□　どんな援助（支援）が必要か　→その手掛かりは、「人」なのか「人以外」なのか

手掛かりが「人」の場合
□　援助のタイミングは「いつ」？

□　援助の量は
「どれくらい」？

できるようになってきたら
□援助の減らし方は「どのように」？

先生自身の振り返りが大切

□　授業のビデオ記録を活用して子供へのかかわり方を振り返ることで、よりよい援助の仕方を考えやすくなります。

授業のビデオ撮影を行い、過剰に援助してしまう場面を振り返ることで、子供の行動を客観的に評価しやすくなるとともに、本当に必要な援助が考えやすくなります。毎日撮影するのは、子供や教師にとって負担が大きいので、例えば、１週間に１回 20 分間等、無理なく続けられる頻度で実施してみましょう。

【文献】青森県教育委員会（2015）：特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの指導のためのハンドブック．
村中智彦 編著（2015）：「困った」から「わかる，できる」に変わる授業づくり．明治図書．
大羽沢子・井上雅彦（2007）：特別支援学級担任の短期研修プログラムの開発と有効性の検討ー学習指導場面における教授行動と学習行動の変容ー．特殊教育学研究，45（2），85-95．

よく一緒に読まれている Q
Q22「子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいですか？」

目次に戻る